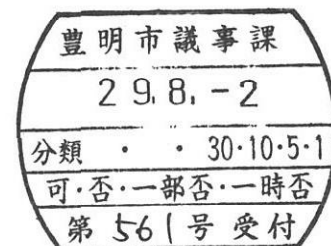


<参考>様式第2号

29年8月2日

豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 一色 美智子

29年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成29年7月27日	秋田県潟上市役所	「学力向上の取り組み」について
28日	秋田県秋田市役所	「もったいないアクション(食品ロス)」について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

平成29年度 視察報告書

一色 美智子

平成29年7月27日（木） 秋田県潟上市
「学力向上の取り組み」について

28日（金） 秋田県秋田市
「もったいないアクション（食品ロス）」について

参加議員 ひまわり 近藤郁子議員・三浦桂司議員・毛受明宏議員・鵜飼貞雄議員
公明党市議団 近藤千鶴議員・一色美智子



平成29年7月27日（木） 秋田県潟上市
「学力向上の取り組み」について

潟上市は、秋田県のほぼ中央の沿岸部に位置しており、東は井川町、南は秋田市、西は男鹿市、北は八郎潟調整池に向かって広大な田園地帯が広がっており、肥沃な穀倉地帯となっている。

秋田空港から車で30分程度の距離にあり、都市的な特性と広大な自然環境を併せ持つ恵まれた地帯となっている。

・人口 33,309人 ・世帯 13,761世帯 ・面積 97.73㎡

潟上市のH28年度全国学力・学習状況調査課題からの現状として

- ・国語においては小中学校の発達段階において、相手に対し分かりやすく伝えることが、読み、書き、話すことにおいて一層の指導が必要である。
- ・算数・数学では、問題の状況を丁寧に読み解き、その関係性を判断することに課題を見受けられる。
- ・調査した教科について共通して見られることは、表現する力、読み解く力、比較検証し判断する力の醸成が必要である。

「問い」を発する子どもの育成に向け（全県的に取り組んでいる）公の場で自分の考えを積極的に発言することができる児童生徒の育成を行っている。

各学校の取り組みの充実として、問いを発しながら問題を解決する



プロセスを重視した秋田探求型授業を推進している。

様々な教育活動の場面における意図的な手立ての工夫として

・各学校・学級では、自主的な活動を通し互いを尊重する共感的な人間関係の重視。自己存在感を得る場や自己決定の場の設定の工夫、学級活動における、必要性のある議題選定の指導を行っている。

・行事や地域では、生き方についての課題意識をもたせる体験活動の工夫、人々との幅広い交流を取り入れた社会体験の充実、目的意識を高める事前指導と事後指導で表現活動の工夫を行っている。



・遊びや生活では、自ら興味・関心を抱いたことに存分に取り組み環境や時間の保障、互いを受け入れられる温かい関係性の構築、伝える喜びや伝わるうれしさを味わうことができる、豊かな会話の機会の重視を行っている。学校や地域との連携による下支えとして、地域の教育資源や教育力の活用（ふるさと教育の取り組み）

・環境ふるさと学習推進事業・土曜塾・寺子屋・小中連携による取り組み

・家庭学習への独自の取り組みとして、（量のみならず質の向上を目指して）学習時間の目安は

小学3年生の場合で、 $3 \times 10 \text{分} = 30 \text{分}$

中学2年生の場合で、 $2 \times 60 \text{分} = 120 \text{分}$

与えられた宿題ではなく、自ら課題を設定し、解決を図る取り組みを目指している。

《まとめ》

- ・潟上市では学習塾が市内にはあまりなく、通塾率は高くなく、塾に通う子は秋田市の学習塾に通っている。
- ・学習塾以外の習い事も決して多いわけではないそうです。
- ・県平均を下回ると県教委から指導があり、頑張って学力向上につとめても、さらに上を目指さなければならなく、頑張れば頑張るほどハードルが上がり、やりきれない思いもあると伺いました。
- ・学習塾もなく、遊興施設のない、授業をベースとした家庭学習の習慣化をめざす学校の取り組み、学習ノートを作り自らの課題で取り組み、担任教師等がコメントを書き込み、学習意欲につなげることをねらいに、ずっと進めて来ているそうです。とても良い取り組みだと思いました。まるで先生との交換日記のような感じでした。学習意欲にも先生との信頼関係にも繋がって行くと思いました。本市においてもこの取り組みが日常的に出来ると、とても良い結果がでるのではないかと実感致しました。

28日（金） 秋田県秋田市

「もったいないアクション（食品ロス）」について

秋田市は秋田県のほぼ中央部に位置し、東には霊峰太平山を擁する出羽山地、西には夕日の美しい日本海が広がる、緑豊かな公園都市である。

あふれる自然をいかしながら、市民が生き生きと伸びやかに暮らせる、人にやさしいまちづくりをすすめている。古くから米どころとして名高く、おいしいお酒の産地としても知られている。また、秋田と言えば「秋田美人」と言うくらい、美人が多いことでも有名である。

・人口 311,596人 ・世帯 136,112世帯 ・面積 136.112㎡

秋田市における食品廃棄物の現状

食べ残し等を含む「生ごみ」は、家庭ごみの約半分。

手つかずの食材がたくさん捨てられている。

真空パックされた魚の切り身やおもち、漬け物、うどん、きりたんぼも捨てられている。

傷んでいない野菜やお弁当や、パックのままの魚や肉、未開封の冷凍食品やレトルト食品も捨てられている。



秋田市が進める食品ロス削減の取り組みとして

・市民の方に向けた啓発として

環境部で開催するイベントやマイバックづくり・生ごみ堆肥づくり講座、町内会などに出向いて行う説明会などの場で、秋田市における食品廃棄物の現状をお知らせし、「今日から取り組める生ごみ減量のポイント」を紹介している。

食べ物を「生ごみ」にしないためとして、「計画的に購入する」「食べきれる量を調理する」「おいしく食べきる」を啓発している。

・食べきりアイデアレシピ集の作成

平成27年度に、家庭から出る生ごみの減量を目的として、市民の方から、残った料理のリメイクアイデアや食材の使いきり調理法などを募集し、「食べきりアイデアレシピ集」を作成した。

・もったいないアクション

食べ物を大切に残さず食べる取り組みとして、宴会時の「食う～ベタイム」のご案内を行っている。

（卓上への啓発のPOPの設置の推進）

宴会の開始時（乾杯から30分）と終了間際（中締め前10分を目安）に「食う～ベタイム」として、自分の席で



料理を楽しむ時間を設け、お料理をおいしく食べきりましょう、という司会者のアナウンスを行っている。

- ・「きれいに食べてきれいな秋田に」の啓発ポスターの設置
飲食店等への「食べきり啓発ポスター・啓発POP」の設置依頼。
- ・食べ残しを減らすために、お店で実施可能なとりくみとして
 - ① 食べきれぬ量での料理の提供（「小盛りあります」の表示、ハーフサイズメニューの設定など）
 - ② 持ち帰り希望者への対応（状況により実施）
 - ③ その他、食べ残しを減らすための工夫



《まとめ》

秋田市では、事業者だけではなく、来店する市民等の食べ残しごみ減量への関心を高めるために、市内の飲食店等に「啓発ポスター」や「啓発POP」の設置を依頼してこれまでに多くの飲食店の協力を得ることができている。

秋田市のもったいないアクション・食品ロス削減に向けての取り組みはとても参考になりました。本市でも取り入れていけるものがあると思いました。また取り入れていかなければいけないと思いました。

